

アクラ会合の位置づけと 今後の国連プロセス



平田仁子
気候ネットワーク
khirata@kiconet.org

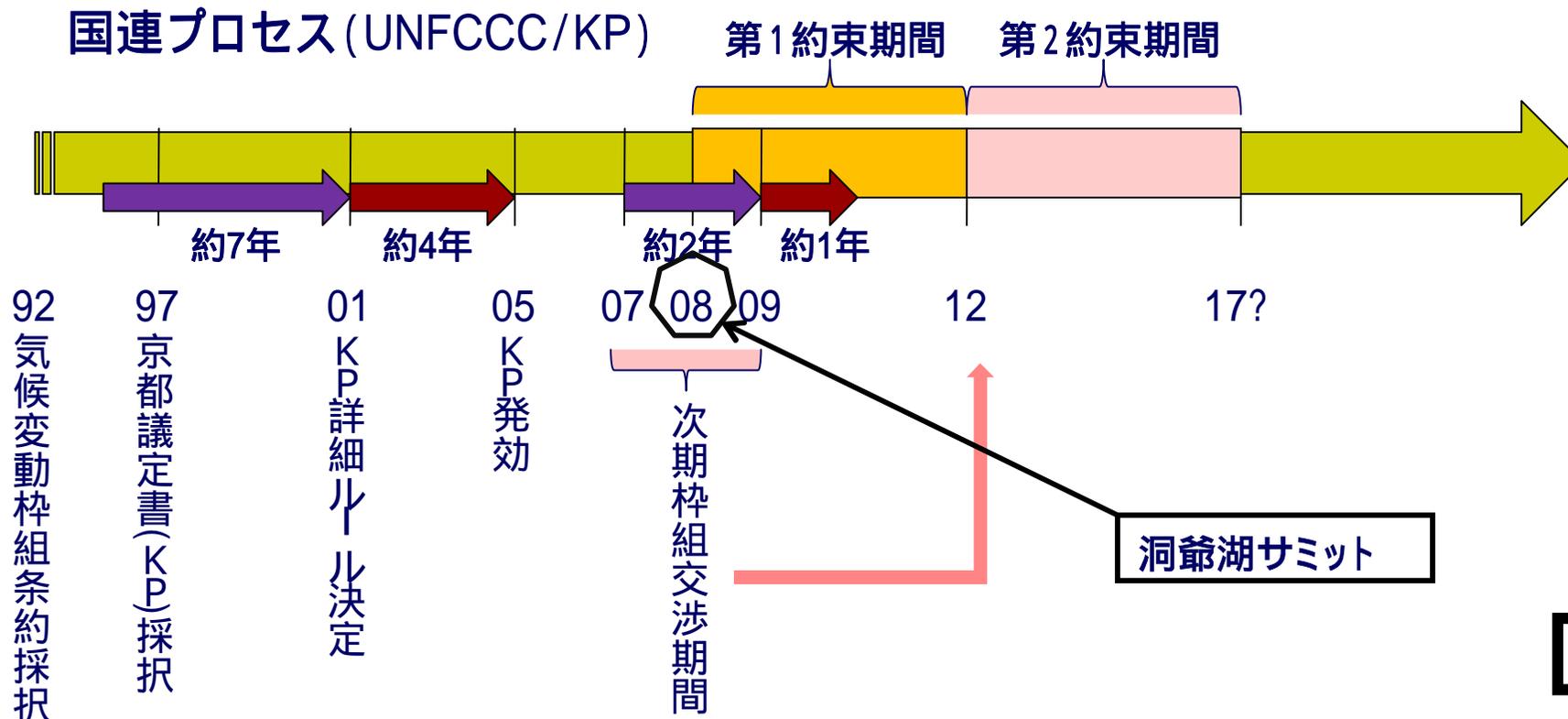
発表の内容

1. 気候変動問題に関する国際プロセス
2. 条約AWGについて
3. 議定書AWGについて
4. アクラ会合
5. 今後のスケジュール
6. コペンハーゲン合意が重要な理由



1. 気候変動問題に関する国際プロセス(1)

- 国連の場を中心に議論が展開されてきた
- 「2013年以降の次期枠組み」交渉が進められている
- 京都会議の時よりも交渉時間が圧倒的に短い(残り15ヵ月)



1. 気候変動問題に関する国際プロセス(2)

2013年以降の次期枠組み交渉を行う場

■ 通常の交渉会議

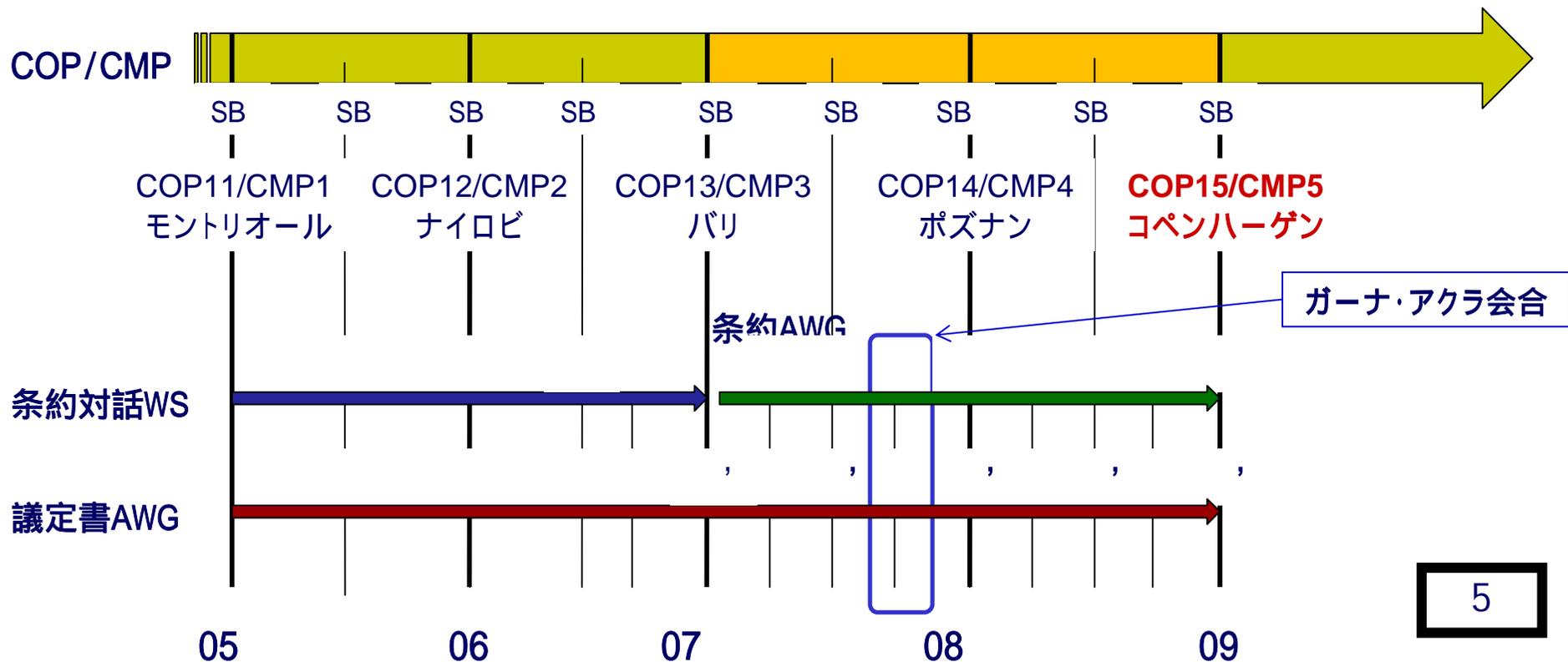
- COP (条約締約国会議) 条約を批准する国による会議 (年1回)
- CMP (COPMOP) (京都議定書締約国会議) 議定書を批准する国による会議 (年1回)
- SB (補助機関会合) 条約会議のサポートをする会議 (年2回)
 - SBI (実施に関する補助機関会合)
 - SBSTA (科学・技術上の助言に関する補助機関会合)

■ 次期枠組み交渉のために特別に設置された場

- 条約AWG
 - 「長期的な協力的行動に関する特別作業部会」
 - 気候変動枠組条約の下に設置
- 議定書AWG
 - 先進国 (附属書 国) の更なる削減目標に関する特別作業部会
 - 京都議定書の下に設置

1. 気候変動問題に関する国際プロセス(3)

- 2013年以降の次期枠組み交渉の流れ
- 05年京都議定書発効後のCOP11/CMP1からプロセス開始
- 2009年末、コペンハーゲンでの合意の実現が目下の最大課題



2. 条約AWGについて(1)

- COP13決議「バリ行動計画 (Bali Action Plan)」
 - 条約の下で2013年以降の次期枠組みについて交渉する場「長期協力の行動に関する特別作業部会 (AWG)」を新設
 - 検討項目
 - 長期目標などのビジョンの共有
 - 先進国 / 途上国の削減策
 - 適応策
 - 技術開発・移転の強化
 - 資金供与や投資拡大

2. 条約AWGについて (2)

- 作業プログラムに基づいてワークショップ開催
 - 条約AWG第1回会合(2008年3月)、バンコク
 - 2008年の「作業プログラム」に合意
 - 条約AWG第2回会合(2008年6月) ボン
 - 「適応」「資金」「技術移転」に関するワークショップ開催
 - 条約AWG第3回会合(2008年8月) アクラ
 - 「セクター別アプローチ」「森林減少対策」に関するワークショップ
 - 条約AWG第4回会合(2008年12月) ポズナン(予定)
 - 「長期ビジョン」「リスクマネジメント」「協力的研究開発」に関するワークショップ

3. 議定書AWGについて(1)

- 2005年の議定書締約国会合(CMP1)にて新設
「先進国の附属書I国の更なる約束に関する特別作業部会」
 - 先進国の第2約束期間の削減義務目標に関する交渉の場
 - 第1回会合(2006年6月)、ボン
 - 作業リスト作成
 - 第2回会合(2006年11月)、ナイロビ
 - 作業プログラム内容に合意
 - 第3回会合(2007年6月)、ボン
 - 削減ポテンシャル等に関して、ラウンドテーブル開催
 - 第4回会合前半会合(2007年8月)、ウィーン
 - 10～15年でピークアウト、2050年に世界で半減、先進国が25～40%削減、に言及。

3. 議定書AWGについて(2)

- **第4回後半会合(2007年12月)、バリ**
 - 2008年の作業計画を決定
- **第5回前半会合(2008年3月)、バンコク**
 - 削減目標達成手段の検討、対象ガスや部門検討
- **第5回後半会合(2008年6月)、ボン**
 - 削減目標達成手段のオプションリスト作成、温暖化係数の検討
- **第6回前半会合(2008年8月)、アクラ**
 - 削減目標達成手段のオプションリスト作成
 - 環境・経済・社会的影響に関する検討
- **第6回後半会合(2008年8月)、ポズナン(予定)**
 - 削減ポテンシャルや先進国の削減幅の確認
 - 2009年作業プログラム検討

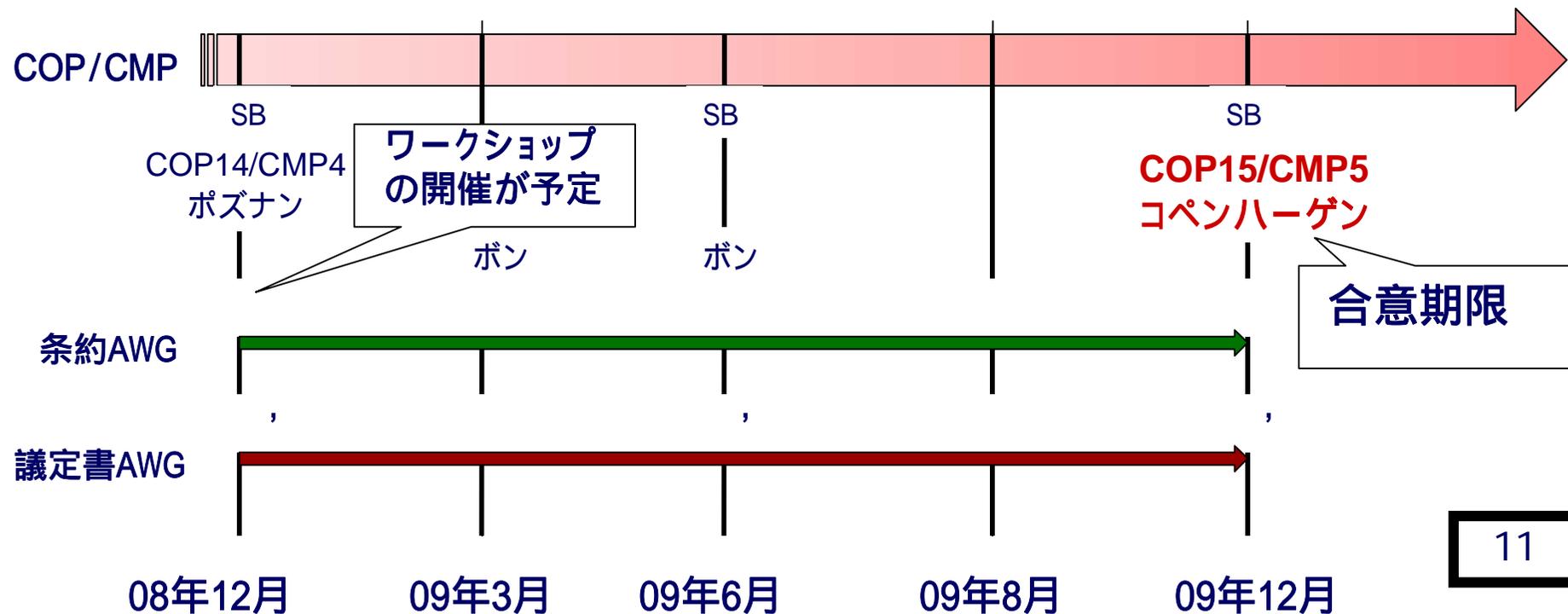
4. アクラ会合 (条約AWG第3回 / 議定書AWG第6回後半)

- ガーナのアクラにて2008年8月21日～27日開催
- それぞれのAWGの主な議題

<p>議定書AWG6.1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成手段の検討 「京都メカニズム」「吸収源」「対象の温室効果ガス」 「温暖化係数」など 交渉のオプションを整理 ガスのバスケットアプローチに合意 ・環境・経済・社会的影響に関する情報の検討
<p>条約AWG3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「セクター別アプローチ」「途上国の森林減少対策」に関するワークショップ開催 ・「緩和」「適応」「制度的対応を含む技術・資金の調達」の3つの分科会で意見交換

5. 今後のスケジュール

- COP14/CMP4: 2008年12月1～12日、ポーランド・ポズナン
- 条約AWG: 議長によるテキストが用意される予定
- 議定書AWG: 環境・経済への影響、国際航空・船舶燃料等を議論
- 2009年は、交渉会議が増える可能性も



6. コペンハーゲン合意が重要な理由

- IPCCの警告:産業革命から2 に気温上昇を抑えるには、世界の排出を2015年までにピークを迎え、2050年に半減、先進国は2020年に25～40%削減が必要
- 次期枠組みは、この要請にこたえるものでなくてはならない
- この機会を逃すと、は
- コペンハーゲンの合が
れない挑戦

